

ポスター | 2-02 体外循環・心筋保護

ポスター

術中管理

座長:寺田 正次(東京都立小児総合医療センター)

Fri. Jul 17, 2015 1:50 PM - 2:20 PM ポスター会場(1F オリオン A+B)

II-P-153~II-P-157

所属正式名称:寺田正次(東京都立小児総合医療センター 心臓血管外科)

[II-P-155]ヘパリン非使用下の吻合による体肺動脈短絡術例の検討

○山名 孝治¹, 櫻井 一¹, 野中 利通¹, 櫻井 寛久¹, 種市 哲吉², 大塚 良平¹, 大沢 拓哉¹ (1.中京こどもハートセンター, 2.千葉西病院)

Keywords:体肺動脈短絡術, 抗凝固, 手術侵襲

【目的】体肺動脈短絡術(BTS)は確立された術式であるが、とくに新生児期の成績には未だ改善の余地が残る。当院では手術時間の短縮、手術侵襲の軽減を目的に、2012年1月から吻合後にヘパリンを全身投与する方針に変更した。この方針変更の前後で主に手術時間短縮に対する効果と、血栓性合併症の頻度などについて検討した。【方法】対象は生後6ヵ月未満に初回手術としてBTSを行った症例で、2012年1月以降のヘパリン非投与群36例(NH群)と、2008年4月から2011年12月までのヘパリン投与群36例(H群)とした。【結果】全72例の疾患の内訳は、TOF 22例(PA 14例, PS 8例), SV 21例, DORV 7例, PA-IVS 6例, cTGA 4例, TA 4例, 他8例だった。H群, NH群でそれぞれ, 男:女比:20:16, 22:14例, 在胎37週未満:2例, 2例, 手術時日齢:50.5±27.8, 40.3±28.5日, 体重:3.7±0.8, 3.6±1.3 kg, 手術創(正中:側方):21:15, 20:16例, PDA手術時間開存(うち術中閉鎖)例:29(15), 25(21)例, 人工血管径(3.0:3.5:4 mm):8:19:9, 16:14:6例だった。H群, NH群で新生児が6, 14例, 体重3 kg未満が4, 14例と, NH群でよりリスクの高い例が多かった。手術時間はH群182±54, NH群187±46分と差はなかったが、同一術者のみで比較すると170±48から156±27分へと約15分短縮傾向があった。術後人工呼吸期間は4.3±2.9, 5.3±3.1日と差はなく、術中、後に血栓性閉塞を疑い再吻合や再開胸を要した例は各群4, 5例で差はなかった。動脈遮断中に末梢側に血栓を生じた症例はなかった。術後補助循環を要した例はH群2例, NH群1例で差はなく、いずれも離脱, 生存退院した。入院死亡は, H群の頻拍発作例とNH群の骨髄異常増殖症例の各群1例ずつで差はなかった。【考察および結語】ヘパリンの全身投与非使用下の吻合による体肺動脈短絡術は、明らかな血栓性合併症の増加もなく、手術時間を短縮できる傾向にあり、低侵襲化に有効と考えられた。